

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2024年7月18日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 医学研究科

職名・学年 大学院3年生

氏名 張 晨如

助成の種類	令和6年度 ・ 国際研究集会発表助成			
研究集会名	MASCC/AFSOS/ISOO 2024 Annual Meeting (国際がんサポーターティブケア学会2024年次総会)			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他(
発表題目	Feasibility of Web-Based Tai Chi and Home-Based Cardiac Rehabilitation Programs for Fatigued Breast Cancer Patients Undergoing Chemotherapy			
開催場所	フランス・リール			
渡航期間	2024年6月26日 ～ 2024年6月30日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円		
	使用した助成金額	350,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費目	金額(円)	
		航空運賃	251,946	
		宿泊費	43,200	
		滞在費(日当)	4,827	
		学会参加費	50,027	
その他		0		
	以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)この度の助成に心から感謝いたします。もしこの助成がなければ、資金集めに苦労し、全身全霊で研究に取り組むことができなかつたでしょう。また、資金不足のために多大な経済的負担を負ったり、この貴重な機会を諦めたりする可能性がありました。今回の助成により、国際的なプラットフォームに立つ機会を得て、より高く、最先端の視点から学びや研究に取り組むことができました。また、生活や将来のキャリア発展を新たな視点で見ることができました。この助成の露出を増やし、より多くの研究者が恩恵を受けられるようにしていただければと思います。			

成果報告 / 張 晨如

1. はじめに

フランス・リールで開催された MASCC（国際がん支持療法学会）学術会議は、がん支持療法分野の最新の研究成果や実践経験を議論・共有するための世界的な学術の場です。運動腫瘍学研究に専念する研究者として、今回の会議に参加し、「化学療法中の疲労した乳がん患者に対するウェブベースの太極拳（WBTC）および家庭ベースの心臓リハビリテーション（HBCR）プログラムの実現可能性に関する研究」という成果を発表することができ、大変光栄に思います。今回の会議では、自分の研究を発表する機会を得るだけでなく、貴重な洞察やフィードバックを得ることができ、この分野での研究をさらに深める決意を固めました。

2. 研究テーマ

私の研究テーマは「化学療法中の疲労した乳がん患者に対するウェブベースの太極拳（WBTC）および家庭ベースの心臓リハビリテーション（HBCR）プログラムの実現可能性に関する研究」です。がん関連疲労（CRF）は、乳がん患者が化学療法中に経験する一般的で深刻な副作用の一つであり、患者の生活の質に大きな影響を与えます。運動は CRF の有効な治療法とされていますが、どのような方法が最適であるかは明らかではありません。そこで、WBTC と HBCR の実現可能性を検証するためのパイロットスタディをデザインしました。

3. 研究方法

この研究は 8 週間の 2x2 因子ランダム化対照試験デザインを採用し、化学療法中に中等度から重度の疲労を経験する I 期から III 期の乳がん患者 24 名を募集します。参加者は、WBTC 群、HBCR 群、両方を組み合わせた群、および標準治療を受ける対照群の 4 つのグループにランダムに分けられます。この介入は、深刻な疲労に苦しむ患者に適した穏やかで患者中心の身体活動として設計されています。主な実現可能性の結果評価はアクセス性、需要、および実用性であり、副次的な結果評価は疲労レベル、身体活動、機能性、および主観的健康指標の変化を測定します。

4. 予想される結果

WBTC および HBCR を個別または組み合わせて使用することは実現可能であり、疲労レベルを大幅に低減することを期待しています。この研究は、患者中心の統合的な腫瘍リハビリテーションのためのエビデンスに基づく実践のギャップを埋めることを目指しています。

5. 結論

この研究の実現可能性が証明されれば、臨床実践における運動介入のガイドとなり、患者の生活の質を向上させることができます。WBTC と HBCR という患者に優しい介入を導入することで、この研究は乳がん治療における疲労管理の新しいアプローチを開拓しており、よりアクセスしやすく個別化されたケアへの関心を高めることを期待しています。

6. 会議で得られた重要な洞察とフィードバック

会議期間中、自分の研究を発表するだけでなく、他の参加者の報告や議論から多くの重要な洞察やフィードバックを得ることができました。

学術研究の面では、他の研究者との交流と議論を通じて、運動腫瘍学が非常に有望な研究分野であることを再確認しました。運動介入は、疲労を緩和するだけでなく、患者の全体的な健康と生活の質を向上させることができます。異なる国や地域からの専門家との交流を通じて、さまざまな運動形式や介入方法に関する最新の研究成果や実践経験を知ることができ、今後の研究に新たなアイデアと方向性を提供してくれました。

学術交流の面では、世界各地の研究者との思想の衝突は貴重な経験でした。同僚たちと深い交流を持ち、研究のアイデアや方法を交換し、貴重なフィードバックと提案を得ることができました。これらの交流は、自分の研究をさらに改善するだけでなく、運動腫瘍学分野に対する興味と情熱をさらに刺激しました。

個人の発展の面では、今回の会議は多くの新しいキャリアの機会を知るきっかけとなりました。特に運動腫瘍学分野でのキャリア発展に関して、この情報は将来の人生設計に深い影響を与え、自分のキャリアパスに対する明確な認識と深い考えを与えてくれました。

7. 未来の研究に与える影響

今回の会議への参加は、私の未来の研究に深い影響を与えました。まず、運動腫瘍学分野での研究をさらに深める決意を固めることができました。他の研究者との交流と学びを通じて、この分野に対する理解が深まり、その巨大な可能性と発展の見込みを確認しました。これにより、今後の研究に向けてさらなる努力を続け、高品質な学術成果を生み出す意欲が強まりました。

次に、会議で得たフィードバックと提案は、今後の研究にとって貴重なガイダンスとなります。これらの意見は、研究の不足点を認識し、改善の方向と方法を提供してくれました。研究デザインと方法を引き続き最適化し、WBTC と HBCR が乳がん患者に与える効果をさらに検証していく予定です。

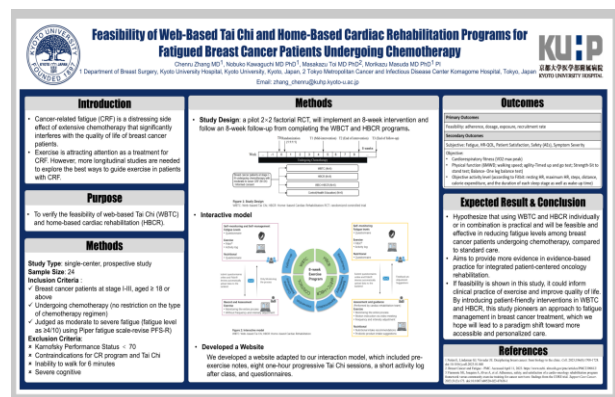
最後に、会議から得たものは学術的な収穫だけでなく、精神的な鼓舞もありました。運動腫瘍学分野に対する愛着と明確な努力の方向を再確認し、研究の継続と次回の学会会議への参加を目指す動機づけを得ました。

8. まとめ

フランス・リール MASCC 学会会議への参加は非常に貴重な経験でした。研究の発表、フィードバックと提案の取得、そして世界中の専門家や同僚との交流を通じて、学術研究、個人の発展、そして未来の計画において大きな進歩を遂げました。今回の会議は、運動腫瘍学分野でのさらなる研究の決意を強めるとともに、今後の研究とキャリア発展に新たな動機と方向性を提供してくれました。今後の研究でさらなる成果を上げ、次回の学会会議での発表を目指して努力していきます。世界中の同僚と共有・交流し、運動腫瘍学の発展を共に推進していきたいと思えます。

謝辞

この度の研究を支援してくださった財団に深く感謝申し上げます。皆様の寛大なご支援と助成がなければ、私の研究は順調に進めることができなかったでしょう。皆様のご支援により、研究に必要な資源と環境が整い、国際学会で研究成果を発表し、交流する機会を得ることができました。この支援は、私の研究進展に大きく寄与し、世界各国の専門家との貴重な交流の場を提供してくれました。皆様のご支援により、私は運動腫瘍学の分野でさらに前進し、新たな知識を探求し、がん患者の福祉に貢献することができるようになりました。心より感謝申し上げます。



会場とE-posterの写真